

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春期	2年～	2単位	—
担当教員			
水本 和実			

授業の目的	東西冷戦が終わり、21世紀を迎えた国際社会では、ますます文化、民族、宗教、言語、習慣などの異なる人々が互いの「違い」を認め合いながら共存していく必要性が高まっています。でも、多文化からなる国際社会でひとたび摩擦や対立が生じると、容易に暴力的衝突に発展しかねません。広島が経験した原爆被爆も、日米間の対立や摩擦がエスカレートした結果、引き起こされたと考えることができます。そうした暴力的衝突をどうすれば防ぐことができるのでしょうか。この講義では、具体的な事例を取り上げながら、多様な文化をもつ国際社会が平和共存していくための方法について考えます。
授業計画	<p>第1回 講義のガイダンスおよび国際社会・国際文化の多様性と「文明の衝突」論</p> <p>第2回 イスラムの社会と文化① イスラム教とは</p> <p>第3回 イスラムの社会と文化② 中東問題</p> <p>第4回 南アジアの社会と文化① ヒンドゥー教とは</p> <p>第5回 南アジアの社会と文化② インド・パキスタンの独立</p> <p>第6回 南アジアの社会と文化③ 仏教とマザーテレサの国</p> <p>第7回 韓国・朝鮮の社会と文化①</p> <p>第8回 韓国・朝鮮の社会と文化②</p> <p>第9回 カンボジアの内戦と虐殺、復興</p> <p>第10回 アメリカの社会と文化</p> <p>第11回 アメリカの原爆開発と投下、戦後の核軍拡</p> <p>第12回 原爆投下をめぐる「記憶」の違い</p> <p>第13回 生物・化学兵器と大久野島の毒ガス</p> <p>第14回 劣化ウラン兵器の問題</p> <p>第15回 広島の被爆体験と核兵器の危険性</p>
授業成果	
テキスト	
参考書	核は廃絶できるか 水本和実 法律文化社 2009 978-4-589-03193-8 21世紀の核軍縮 広島平和研究所編 法律文化社 2002 ISBN4-589-02599-X 人道危機と国際介入 広島市立大学広島平和研究所編 有信堂 有信堂 2003 ISBN4-8420-5547-2
成績評価の方法	中間レポート（20%）、期末レポート（40%）および出席・講義での積極性（40%）で総合的に判断します。
その他	各回の講義のトピックスは一応の目安で、講義の進展に応じて適宜、変わることがあります。参考文献については、講義で別途、指示します。講義ではビデオ教材を積極的に使うほか、受講生との意見交換や積極的な発言を期待します。教室では、前半分の座席に着席して下さい。
参考URL	

ベンチマーク	
	<p>①講義(知識伝達) ②演習 ③実験・実習 ④ディスカッション、ディベート ⑤問題(課題)発見解決(PBL) ⑥体験(実践)学修(学外実習・インターンシップ) ⑦調査学修(フィールドワーク) ⑧その他(具体的に)</p> <p>A : グループワーク有り B : 発表(プレゼンテーション)有り</p>